

1. 当四半期決算の経営成績に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間においては、売上高は、カプロラクタム等の販売価格下落およびナイロン・石炭等の販売数量減少により減収となりましたが、営業利益は、合成ゴムのスプレッド改善、機能品等の販売数量の増加、および石炭等の原料価格下落の影響により増益となりました。営業外収益は、前期にあった持分法適用関連会社の事業統合による利益がなくなったことから、減少しました。

この結果、当社グループの連結業績は、次のとおりとなりました。

単位：億円

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
当第2四半期①	3,350	167	166	107
前年同期②	3,482	150	186	123
差異①-②	△132	17	△20	△15
増減率	△3.8%	11.4%	△11.0%	△12.6%

(2) セグメント別の説明

(売上高)

単位：億円

セグメント	当第2四半期①	前年同期②	差異①-②	増減率
化学	1,464	1,546	△81	△5.3%
建設資材	1,527	1,558	△30	△2.0%
機械	420	432	△11	△2.8%
その他	23	22	1	4.5%
調整額	△84	△75	△8	—
合計	3,350	3,482	△132	△3.8%

(営業利益)

単位：億円

セグメント	当第2四半期①	前年同期②	差異①-②	増減率
化学	83	82	0	0.8%
建設資材	67	55	11	20.9%
機械	16	13	3	24.3%
その他	2	2	△0	△13.1%
調整額	△2	△3	1	—
合計	167	150	17	11.4%

化学 … 減収増益

■ナイロン・ファイン事業

ラクタム事業は、中国市場の需要鈍化もあり販売価格が下落し販売数量も減少したことにより、減収となりました。

ナイロン事業は、ラクタム価格下落の影響に加え、主に中国市場の需要減退により販売数量が減少したことにより、減収となりました。

工業薬品事業は、アンモニア工場の隔年の定期修理がなく、生産量・出荷量ともに増加したことにより、増収となりました。

ファイン事業は、堅調な需要を背景に総じて販売価格が上昇したことにより、増収となりました。

ナイロン・ファイン事業全体としては、ラクタムとナイロンの影響が大きく、減収減益となりました。

■合成ゴム事業は、タイヤ用途を中心に出荷が概ね堅調に推移する中で、主原料であるブタジエン価格が製品価格よりも下落しスプレッドが改善したことにより、減収増益となりました。

■機能品事業

電池材料事業は、中国市場での競争激化および主要顧客における生産調整等の影響もあり販売数量が伸び悩んだことにより、減収となりました。

ポリイミド事業は、ディスプレイ向けCOFフィルムの販売数量が堅調に推移し、また中国市場での有機ELパネル向けワニスの需要が拡大し販売数量が増加したことにより、増収となりました。

機能品事業全体としては、総じて販売が堅調であったことから、増収増益となりました。

■医薬事業は、自社医薬品・受託医薬品ともに顧客である製薬会社の販売が好調に推移したことおよびロイヤリティ収入が増加したことにより、増収増益となりました。

■化学セグメント全体としては、原料価格の下落に応じた販売価格の修正等により、減収となりましたが、合成ゴム事業のスプレッド改善や機能品事業・医薬事業の拡販等により、増益となりました。

建設資材 … 減収増益

■セメント・生コン事業は、国内需要が稼働日減少の影響もあり低調に推移したため、減収となりました。

■カルシア・マグネシア事業は、鉄鋼・電力向けマグネシアなどの価格改定効果等により販売価格は上昇したものの景気悪化による販売数量減少の影響が大きく、減収となりました。

■エネルギー事業は、石炭の販売数量の減少により減収となりました。

■建設資材セグメント全体としては、セメント・生コンおよび石炭等の販売数量減少の影響はあるものの、原料である石炭価格下落の効果により、減収増益となりました。

機械 … 減収増益

■米中貿易摩擦に端を発した景気減速が設備投資にも世界中で影響し、成形機事業、産機事業ともに製品の出荷が減少しましたが、サービス事業は堅調を維持しており、また製鋼事業での採算性改善もあり減収増益となりました。

その他 … 増収減益